

表 2 の一つの組織型群に属す場合は、1 個の腫瘍とみなす。複数の組織型群に属す場合は、たとえ同一部位であっても異なる組織型と考え、複数の腫瘍としてカウントする。

いくつかの異なる組織型を併せ持つ単一腫瘍が表 2 の単一組織型群に属す場合は、高い数字の ICD-O-M を用いて単一腫瘍として登録する。

しかし、非特異的な組織型（組織型群 5,12,17）に関しては、特異的な組織型の腫瘍が存在すれば、非特異的な組織型は無視し、特異的な組織型を登録すべきである。

表 2 Berg の組織型群（多重がんの判定において、異なる組織型と考える組織型群）

1. 扁平上皮癌	8051-8084, 8120-8131
2. 基底細胞癌	8090-8110
3. 腺癌	8140-8149, 8160-8162, 8190-8221, 8260-8337, 8350-8551, 8570-8576, 8940-8941
4. その他の明示された癌腫	8030-8046, 8150-8157, 8170-8180, 8230-8255, 8340-8347, 8560-8562, 8580-8671
5. 詳細不明の癌腫	8010-8015, 8020-8022, 8050
6. 肉腫およびその他の軟部組織の腫瘍	8680-8713, 8800-8921, 8990-8991, 9040-9044, 9120-9125, 9130-9136, 9141-9252, 9370-9373, 9540-9582
7. 中皮腫	9050-9055
8. 骨髄性悪性腫瘍	9840, 9861-9931, 9945-9946, 9950, 9961-9964, 9980-9987
9. B細胞性悪性腫瘍	9670-9699, 9728, 9731-9734, 9761-9767, 9769, 9823-9826, 9833, 9836, 9940
10. T細胞、NK細胞性悪性腫瘍	9700-9719, 9729, 9768, 9827-9831, 9834, 9837-9948
11. ホジキンリンパ腫	9650-9667
12. 肥満細胞性悪性腫瘍	9740-9742
13. 組織球および副リンパ球様悪性腫瘍	9750-9758
14. 詳細不明の血液腫瘍	9590-9591, 9596, 9727, 9760, 9800-9801, 9805, 9820, 9832, 9835, 9860, 9960, 9970, 9975, 9989
15. カボジ肉腫	9140
16. その他の明示された腫瘍	8720-8790, 8930-8936, 8950-8983, 9000-9030, 9060-9110, 9260-9365, 9380-9539
17. 詳細不明の悪性腫瘍	8000-8005

多重がん登録に関する IACR の最新勧告

1) 乳房など両側臓器に同時期に診断された同じ組織型の複数の腫瘍は、一方が他方の転移であるという断りがない限り、それぞれ独立して登録すべきである。但し、下記腫瘍が同時期に診断された場合は、両側性の単一腫瘍として登録する。

卵巣腫瘍（同一組織型）

腎臓のウィルムス腫瘍（腎芽腫）

網膜芽細胞腫

胸膜中皮腫

注意：両側臓器の全く異なる組織型の腫瘍は、別々に登録されなければならない。

2) 大腸（C18）と皮膚（C44）の異なる 4 桁部位に発生したがんは、それぞれ独立して登録すべきである。

沖縄県のがん登録

仲程 京子

沖縄県衛生環境研究所企画情報室

沖縄県は、国の対がん 10 力年総合戦略の推進に対応して昭和 62 年～63 年にがん特別事業を実施し、昭和 63 年 1 月に沖縄県におけるがん罹患率の測定、受療状況の把握、生存率の測定、がん予防・医療活動の評価、医療機関への情報サービス、がん疫学研究を目的として沖縄県悪性新生物登録事業（がん登録事業）が先進県の指導、助言を得てスタートした。

沖縄県がん登録事業の実施主体は沖縄県福祉保健部、実施機関は沖縄県衛生環境研究所で、企画情報室内（発足当時は沖縄県公害衛生研究所疫学情報室）に中央登録室を置き、実務担当者 1 名（常勤の研究員）及び入力業務を主とする約 6 ヶ月の非常勤 1 名にて届出票の発送・届出票の収集・人口動態死亡票の収集（がん実務担当者が各保健所へハンディコピー機を持参して行う）・帳票保管・データ入力・集計・解析・報告書作成および発送といった一連の業務を行っている。地研に中央登録室が設置されているのは、全国的にも極めて希なケースであるが他道府県のように、大学の公衆衛生関連講座との協力関係が構築できなかった事やがん専門病院がないこと等諸々の要因があり、医師不在の当研究所でがん登録実務担当者の地道な努力により本県がん登録は継続してきた。幸いにも今年度から臨床および行政経験ともに豊富な医師を所長に迎えたことは大変心強く感じている。

本県のがん登録の特徴として、届出票の約 7 割を出張採録に依存していることであり、ちなみに昨年度の実務担当者の出張採録実日数は 62 日間である。DCO 率は平成 3 年 25.6%をピークに平成 10 年 47.0%、平成 13 年 41.0%となっており、改善

傾向にあるもののがん死亡数の増加に罹患者の把握が追いついて行けない実情である。このように苦しい状況の中で実務担当者を支えてきたのは、大阪府立成人病センターを主任研究者とする「地域がん登録研究班」へ協力研究者として参加させて頂き、諸先生方から多くのご指導および励まし、そして研究費による財政的援助を頂いた事によるものである。特に平成 12 年度は、それまで実施することができなかった 5 年生存率計測について、研究班の課題として参加することにより（研究班の大島先生・津熊先生・味木先生のご助言・指導に力を得て）、単年度ながら良好な精度で実施することができた事さらに、その際の住民票照会の手法等がユニークであった事から平成 13 年度地域がん登録全国協議会がん登録実務者研修会において発表させて頂いたこと等、「地域がん登録研究班」へは深く感謝している。

昨年度スタートした「がん予防対策のためのがん罹患・死亡動向の実態把握の研究」班の 15 支援地域の中に*印付きで「地域性を配慮しての支援」として入れて頂いたことは何とか標準化の波に乗り遅れることを免れ、九死に一生を得た感である。本州から遠く離れ、130 万人と比較的小さな人口規模で、人口移動も少なく、特有な気候風土を有する沖縄県におけるがん登録は、沖縄県のがん予防・医療水準の向上のみならず、日本におけるがん罹患状況把握においても重要なものであると痛感する。

今後の課題は登録精度の向上であり、現状のままではがん登録の有益性を証明することは極めて困難である。精度向上の方法として、自主的届出勧奨のための説明会や勉強会を開催し普及啓発を図る 出張採録医療機関の見直し 地域がん診療拠点病院との連携を図る 診療情報管理室等の整備されていない医療機関への設置に向けての支援 保健所のがん登録事業に於ける役割の明確化 祖父江班の標準システムに合わせたデータ整備等が上げられる。しかし、課題は多かれどスタッフ・予算の圧倒的不足はどうにかならぬものか...と、各登録室からも同じつづやきが聞こえてきそうではありますが、希望を持って日々業務に邁進するのみある。

CIV Vols. I-VIII. インターネット版の紹介

西野 善一
宮城県立がんセンター研究所疫学部

世界各地のがん罹患統計がまとめられた Cancer Incidence in Five Continents (CIV) は 2002 年に第 8 巻が刊行されたが、このほど第 1 巻から第 8 巻までの集計データがインターネット上で得られるようになった。CIV Vols. I-VIII. インターネット版は国際がん研究機関(IARC)の website 中の“Cancer Mondial”(<http://www-dep.iarc.fr/>) で利用可能である。

インターネット版は original database、updated database および detailed database の 3 つのデータベースから構成されており、このうち original database は既に刊行された CIV 第 1 巻から第 8 巻に記載されている集計データをインターネット上で利用可能としたものである。同一期間における各登録の部位別、あるいは各部位の登録毎の罹患数、罹患率に関する表が得られるのに加えて、第 1 巻から第 8 巻までのデータが同じデータベース上にまとめられていることにより、期間毎の罹患数、罹患率の推移に関する表が容易に作成可能である。また、データベースに基づいた各種グラフの編集もできる。updated database は、これまで刊行された CIV 中の少なくとも 3 巻に連続してデータが掲載されている地域がん登録に対して、IARC が昨年データの提出を依頼することにより作成された更新データである。データが更新の上、各登録の集計期間が可能な限り統一化されている他は original database と同様の内容および機能を持つ。detailed database は、これまでほぼ 5 年を単位として集計されていた各登録のデータを updated database に基づき単年度で提示しているものである。さらに、これらのデータベースでは、現在準備中である CD-ROM 内のソフトを別途使用することにより、いくつかの部位や地域をまとめた形での集計を行うことができるのが特徴である。

インターネット上で公開されることにより、データ入手の利便性が大きく向上したことに加えて、各巻刊行後の集計データが反映された更新データが公開されたことでインターネット版の価値は大きいと考えられる。今後各方面で大いに活用されることを期待したい。